

経営比較分析表（令和4年度決算）

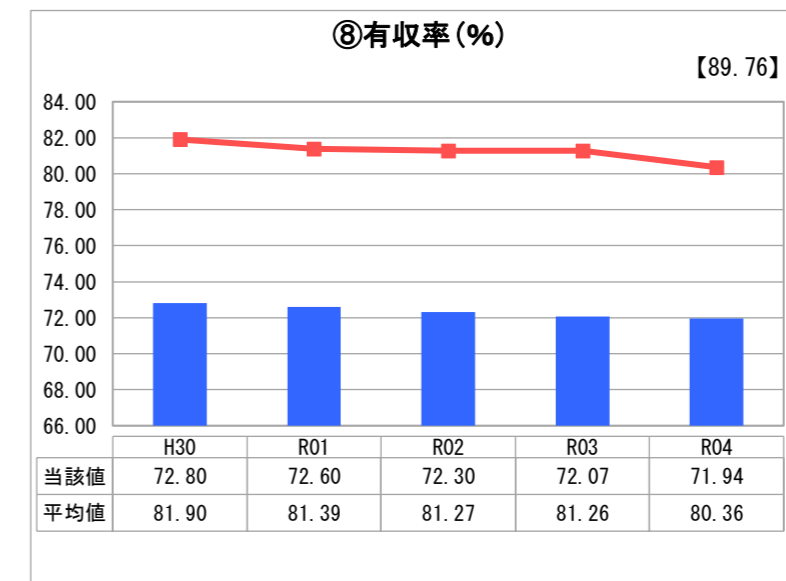
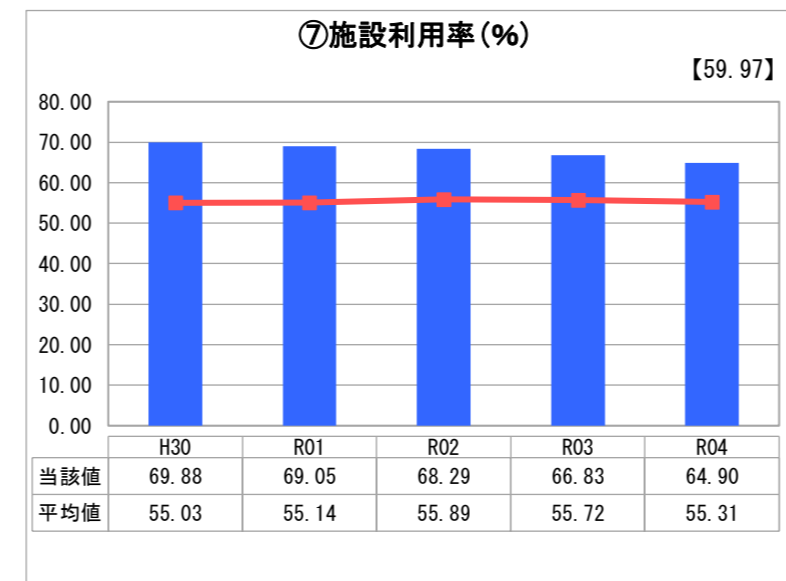
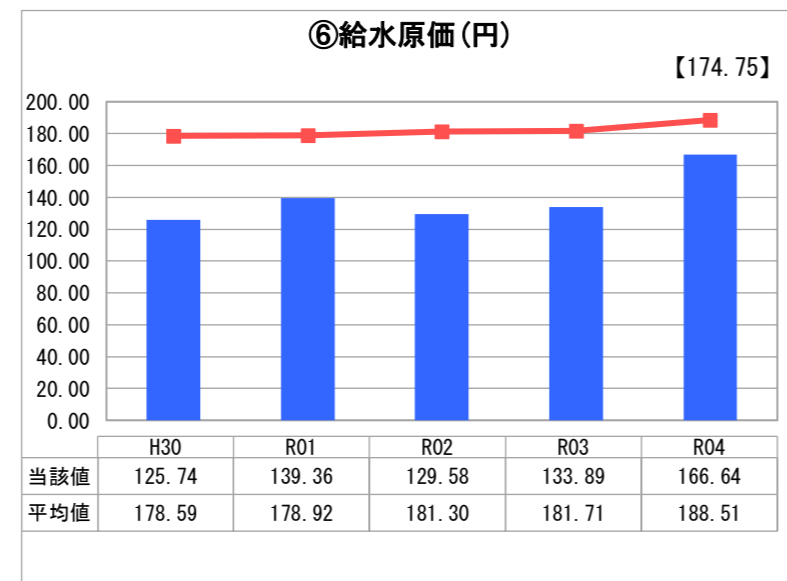
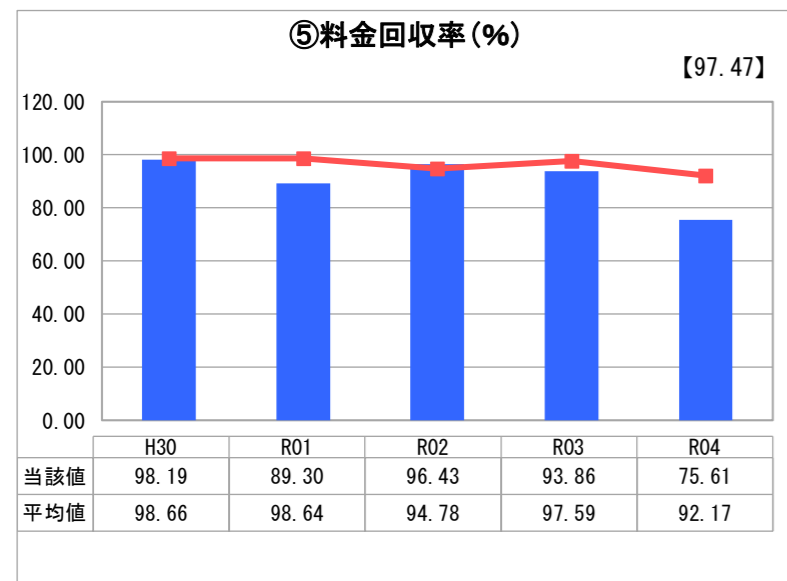
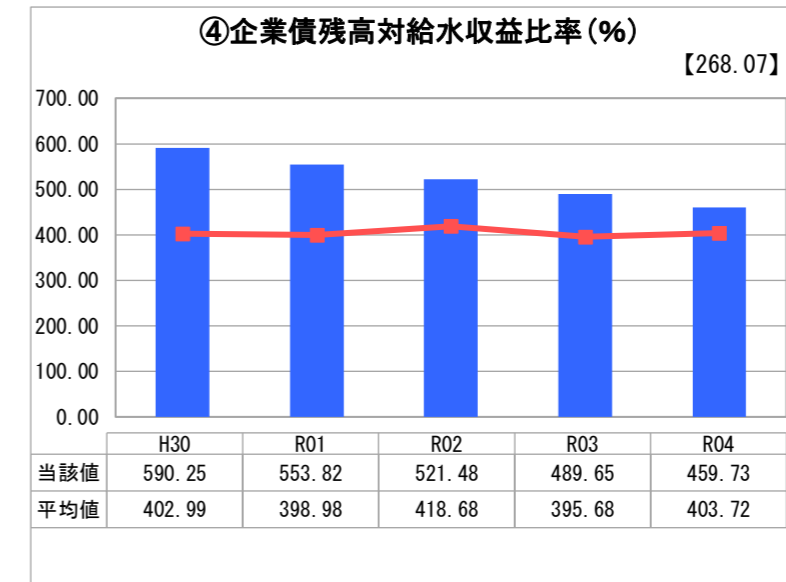
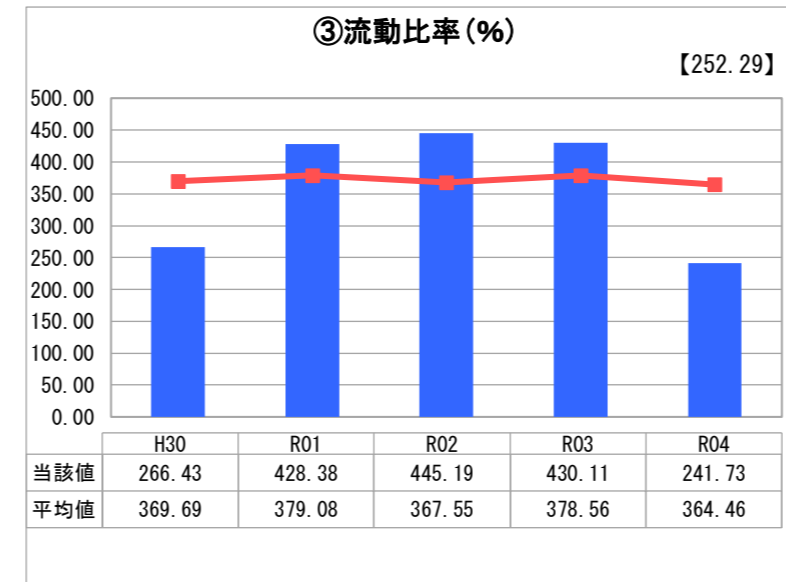
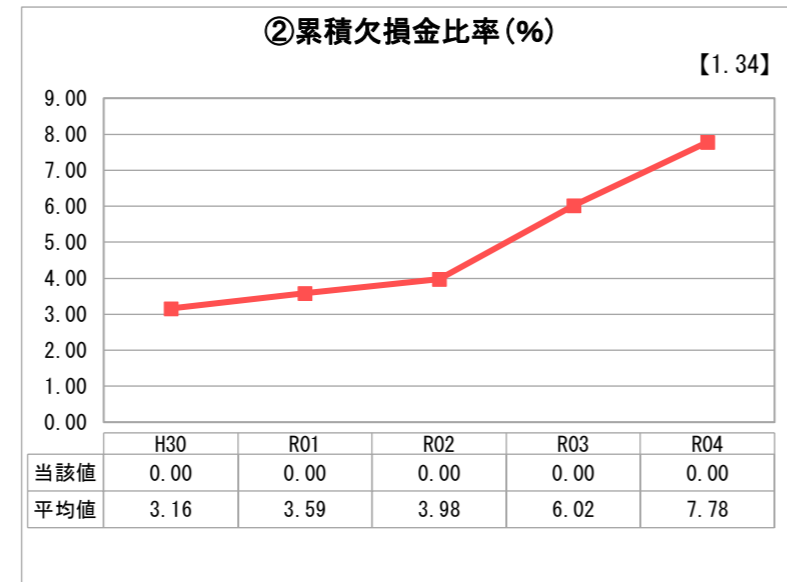
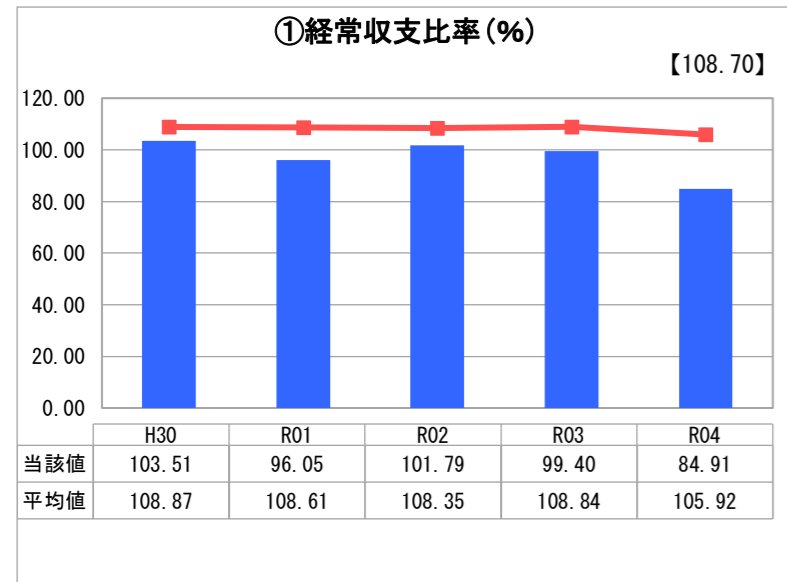
岐阜県 山県市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.92	83.35	2,420	

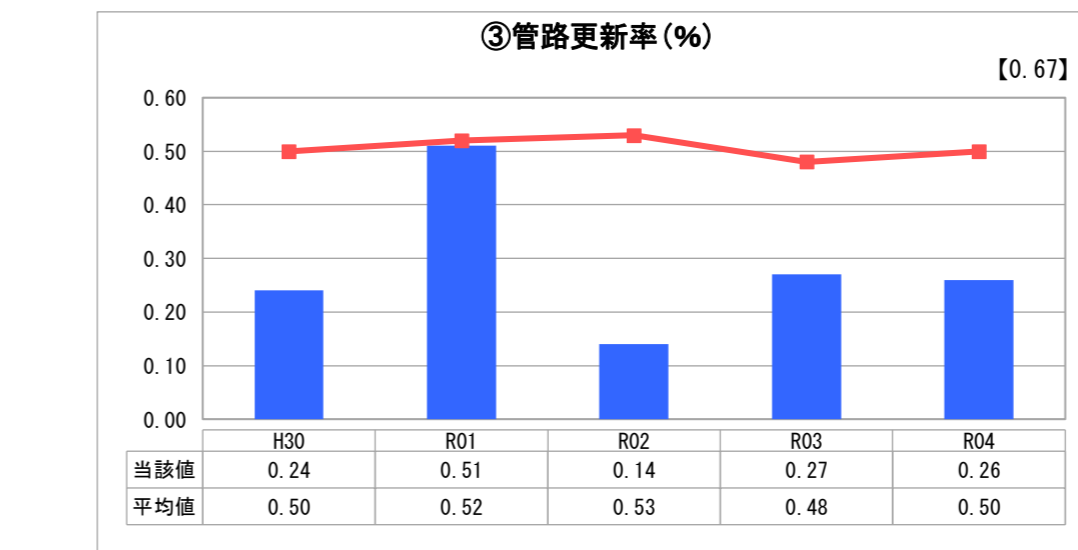
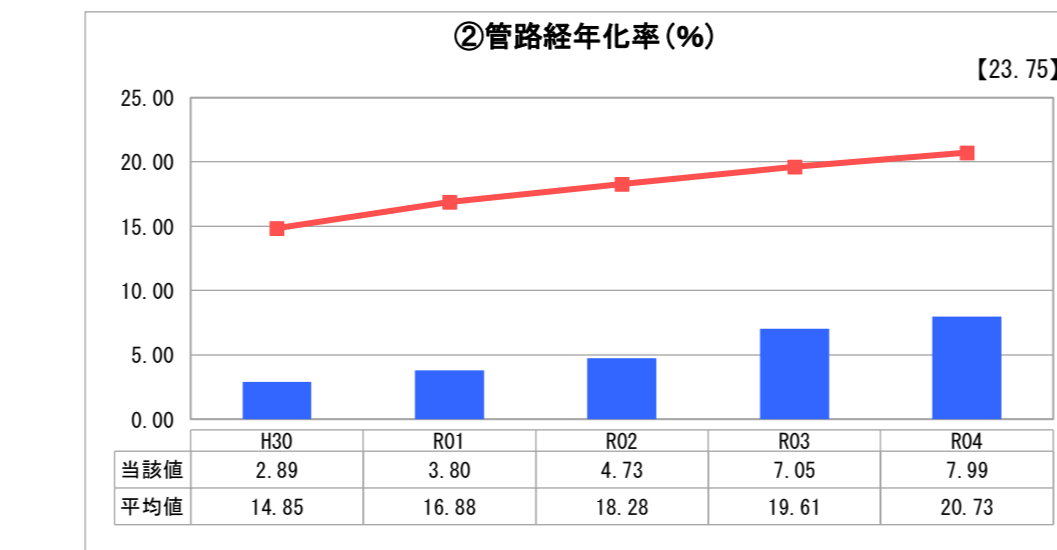
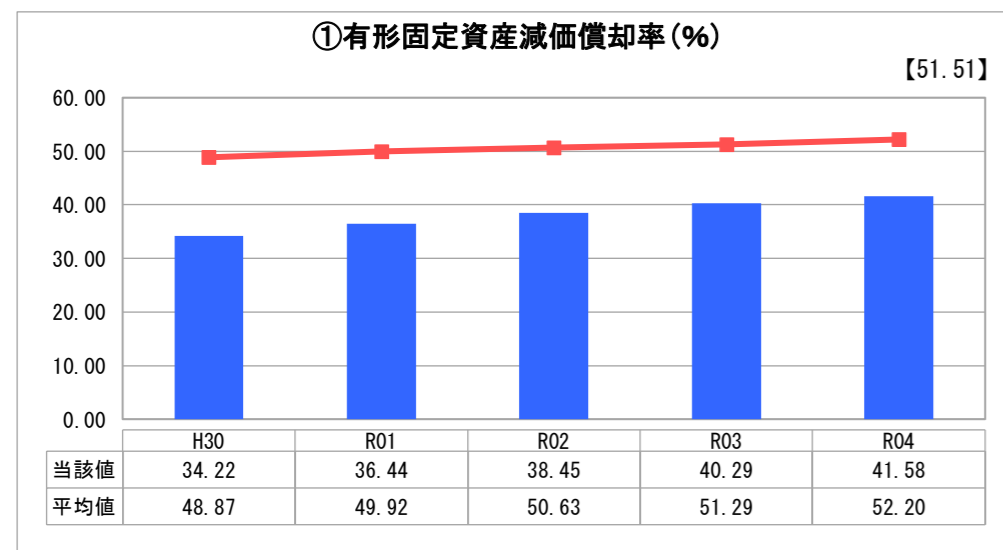
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,545	221.98	115.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,171	197.21	107.35

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を下回り、赤字の計上となった。類似団体平均値と比較しても大きく下回っており、経営状態は良好でない。今後については、料金改定を予定しており経営改善を行っていく。また料金改定以外にも費用の削減、施設の統廃合などを検討し、経営改善に努める必要がある。

② 流動比率は、動力費などの物価高騰に伴い前年から大きく減少する結果となった。流動資産額は減少する中で、今後も老朽化した施設の更新等に多額の費用が見込まれるため、経営改善を行い、財源の確保に努める必要があると考える。

③ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を上回る数値となった。後は、料金改定を予定しており、更新工事費等の捻出の為、資金のバランスを注視しつつ借入も検討していく必要があると考える。

④ 料金回収率は、前年度から低下、類似団体平均値を大きく下回った。原価割れが続いている。料金改定を予定しており、改善する見込みであるが、経費削減等を行い、財源の確保に努める必要があると考える。

⑤ 給水原価は、類似団体平均値を下回っているものの、前年度と比較すると増加している。動力費などの物価高騰に伴う費用の増加が要因であり、費用削減等の健全経営に努める。

⑥ 施設利用率は、全体的に見て類似団体平均値より高い数値を計上しているが、地区ごとによっては利用率に差が出ているのが現状である。更なる利用率向上の為に施設の統廃合を検討していく必要がある。

⑦ 有収率は、年々減少傾向にあり、類似団体平均値を大きく下回る。漏水修繕、布設替工事を行うも、老朽化の速度に追いついておらず、漏水箇所の増加が有収率を下げる結果となった。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産償却率は類似団体平均値を下回っているものの年々増加傾向にある。現状は良好であるものの、老朽化は進行しており、計画的な更新工事及び長寿化を図る必要がある。

② 管路経年化率は、類似団体平均値を下回っているものの増加傾向にある。計画的な更新工事が必要であると考えられる。

③ 管路更新率は、前年に対しほぼ横ばいであり、類似団体平均値を下回る結果となった。老朽化する管路に対し更新する管路のバランスがとれていないため、計画的に更新を行っていく必要がある。

全体総括

経常収支比率が100%を下回り、赤字を計上した。加えて、料金回収率も減少しており給水収益で経営が賄えておらず、有収率も年々減少傾向にあり、経営状態は良好ではない。料金改定を行う予定であるが費用の削減、施設の統廃合等の抜本的な経営改善が必要であると考えられる。

有形固定資産減価償却率は現状では良好であるも、年々増加傾向であり、管路経年化率も増加している。今後更に有形固定資産減価償却率が増加すると考えられるため管路経年化率のペースを注視しつつ、計画的な更新工事を行い有収率の向上を計り、上水道事業が安定かつ健全な経営を実施できるよう取り組む必要がある。